

# 平成28年度第12回 教育委員会会議 会議録

- 1 日 時 平成28年11月1日（火） 13：16～17：14
- 2 場 所 3号館8階教育委員会室
- 3 出席者 <教育委員会>  
雪村教育長 森本委員 梶木委員 伊東委員 福田委員 今井委員  
<事務局>  
林教育次長 岡田スポーツ担当局長 稜野総務部長  
川田指導部長 日下社会教育部長 後藤教育施策推進担当部長
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 2名
- 6 会議内容

（雪村教育長）

ただいまより、教育委員会会議を始めます。

本日は、議案2件、協議事項2件及び報告事項6件です。

このうち、教第43号議案については教育委員会会議規則第10条第1項第2号により、職員の人事に関する事。教第42号議案については同項第3号により、長の作成する議会の議案に関する事。協議事項8、協議事項9、報告事項2及び報告事項4については同項第6号により、会議を公開することにより、教育行政の公正かつ適正な運営に著しい支障が生じるおそれのある事項であって、非公開とすることが適当であると認められるものとして非公開としたいと思いますが、賛同いただけますでしょうか。

（6名の賛成により、非公開案件を決定）

（雪村教育長）

それでは、報告事項3、神戸市立博物館と神戸松蔭女子学院大学との連携について、博物館よりお願いします。

## **報告事項3** 神戸市立博物館と神戸松蔭女子学院大学との連携について

（小野田博物館学芸課長）

博物館と神戸松蔭女子学院大学との連携について報告します。

博物館と神戸松蔭女子学院大学は、相互の人的・知的資源の交流や活用などにかかわる幅広い連携事業を協力して実施することにより、地域貢献の進展及び教育・研究の充実に資することを目的として、連携協定を締結します。

具体的な連携内容としては、12月23日金曜日（祝日）から開催される特別展「古代ギリシャ 時空を超えた旅」期間中の2月26日に開催する記念講演会への講師依頼、それから松蔭女子学院大学で開催される大学祭での移動博物館「おきしお夢はこぶ号」を展開します。

次年度以降について、大学側からは博物館の館蔵品の資料を生かした企画イベントの実施、女子大学生の感性を生かしたミュージアムグッズの開発等々があります。

博物館側からは、大学主催の公開講座への学芸員の派遣、来年度から開講されると聞いている大学の選択科目「神戸研究総論」への学芸員派遣が挙げられます。

協定の調印式は平成28年11月20日の日曜日に、神戸松蔭女子学院大学で実施する予定です。当日は松蔭祭という大学祭が開催されていて、その会場での調印式を行う予定です。当館からは梶本館長が出席し、調印する運びとなっています。

以上です。

（雪村教育長）

この件についていかがでしょうか。

（森本委員）

ほかの大学とは連携されていますか。

（小野田博物館学芸課長）

平成24年5月に、神戸市外国語大学と連携協定を結んでいて、毎年、人的交流を行っています。

（森本委員）

こういった連携は、博物館から持ちかけるのですか。それとも、大学から持ちかけられるのですか。まだ、これからもほかの大学ともありそうですか。

（小野田博物館学芸課長）

今回は、松蔭女子学院大学から申し出がありました。

連携協定がふえる可能性はあると思います。

大学ではないですが、平成26年には神戸市いきいき勤労財団とも連携協定を結んでいて、学芸員が講座に出向いています。

（森本委員）

連携先と1つのグループを形成することはないですか。あくまで個別ですか。

(小野田博物館学芸課長)

個別です。

(寺田博物館副館長)

それぞれと私ども博物館と個別にという形で行かせてもらっています。

(森本委員)

博物館のよさが大学の学生に伝わったらいいですね。神戸市出身の学生なら、小学校のときに、皆さん行かれていますよね。

(小野田博物館学芸課長)

小中学校に対しては、年間100日ぐらい出張授業という形で出向いていますが、大学となると個人的に非常勤講師で行っている者はいますけれども、なかなか行けていません。

(梶木委員)

こういう協定があると、入館料などで特典はありますか。

(寺田博物館副館長)

例えば、ほかの館では、梶木委員が言われた「無料」といった特典などがありますけれども、今回はそこまでの協定ではありません。

その場合は何かしらの協力金などをいただいたりした上で、特典という形をとられているようですが、今回は、そこまでの協定は考えていません。

(梶木委員)

「博物館学」のような授業で使われますか。学芸員の養成みたいなものがありますね。

(小野田博物館学芸課長)

博物館としては、夏休み中に、松蔭女子学院大学も含めた神戸市内の大学から博物館実習で学生を受け入れています。言わばそれは博物館の一つの責務です。それ以外に大学では評価項目があり、「地域貢献」が取りざたされていますので、できれば協定を結んで地域貢献したいという大学側の意向はあるようです。

(雪村教育長)

ほかに質問はよろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

続いて報告事項5、第33期（第6回）神戸市社会教育委員会議についてお願いします。

## **報告事項5** 第33期（第6回）神戸市社会教育委員会議について

(宮崎生涯学習課長)

報告事項5、第33期（第6回）神戸市社会教育委員会議について報告します。

せんだって、社会教育委員会議の報告が上がっていないと指摘を受けまして、申しわけありませんでした。改めて報告します。

資料1ページには8月10日に行われた社会教育委員会議の次第をつけています。

社会教育委員会議は、最初に前回の議事録要旨を確認して、こういうことを議論したということを復習してから議事に入るという流れです。今回については3月の前回会議録を確認してから、議事に入りました。

今回、議論した内容は、平成28年の社会教育関係団体の補助金交付についてです。資料2ページ以降に議事録を添付していますが、補助金交付について、2ページ（2）のところ「補助金交付について」というくだりがあります。

結論としては、5ページの上から3分の1ぐらいのところ、「本件2団体の補助金交付について承認いただいたということによろしいか」とお聞きして、「異議なし」ということで、結論としてはこれで終わっています。補助金をどこに出したのかについては、14ページに記載しているとおり、神戸市PTA協議会と神戸市婦人団体協議会の2団体です。金額は30万円と55万5,000円です。それぞれ非常に長い間、活動されている団体なので、「結論的には問題ないです」ということでした。

少し議論になったこととして、「社会教育関係団体に対する補助金というのは、用途を明示しないで自由裁量で出すべきものではないか」という指摘がありました。現在、神戸市全体で補助金を整理しており、用途を明確にして、「こういう事業をするなら、これに対して補助金を出しましょう」というように用途を明確にする方向にあります。その方向性と社会教育団体に対する補助は少し違うのではないか、逆方向ではないかという指摘を受けました。「そうは言いながらも、公金を出すことなので、当然説明責任が生じます。説明責任と裁量の兼ね合いがあります」と説明しています。

議論の内容としてはその1点です。

その後、平成27年度の教育振興基本計画、重点事業の評価シートについて報告しました。これについては全体の説明を教育委員会会議でもされていると思います。生涯学習関連事業について、家庭教育、教育を支える主体、家庭、地域やPTA、大学、企業、NPOなどといったものの連携と協働、家庭教育支援の充実、生涯を通じて市民がみずから学び、生かす、つながる学習環境づくり、それからスポーツの振興といった4点を生涯学

習関連ということで報告しました。

そこで出た話としては、スポーツ関係クラブの数の増減、また神戸マラソンがありますけれども、これが人気だということ、それからもう一つ、重点事業17についてということで、議事録は資料5ページの下のほうです。

資料16ページの重点事業17、教育を支える主体の連携と協働というところを説明しましたけれども、その中では、昨年12月に中央教育審議会の答申で、学校、地域の連携をさらに進めないといけないという話があって、その中で「公立学校のコミュニティースクール化」、「地域、学校の協働活動」といったことがキーワードになっているはずだという指摘をいただきました。6ページ4行目のところですが、「神戸市立高校が地域を活性化させるために主役になっていく可能性についてどうなのか」という問いかけがありました。

こちらについては、「高校は定時制も含めて8校しかなく数が少ないことに加えて、神戸市の場合には県立高校がたくさんあることから、なかなかそこまでは考えられていません」と答えましたけれども、「もう少し地域コーディネーターなどを育成をしていかないといけない」、「もう少し考えるべきではないか」という意見をいただいています。

その後、市立高校の校長先生のところに話をしに行きましたけれども、すぐに対応できる名案はありませんでした。ただ、高校生にはパワーもありますし、高校生自身がやはり大人にならないといけないと思います。18歳で選挙権を得ることもあって、高校生の社会参加を今よりも前向きに考える必要があるということを高校と話をしてきました。

ただ、来年度の予算で打ち出して、というところまではできていないという状況です。

非常に概略ですけれども、前回の社会教育委員会議の中で議論された内容については以上です。

(雪村教育長)

社会教育委員会議について、いかがでしょうか。

(森本委員)

資料、ありがとうございました。

議長は、どなたがされているのでしょうか。

(宮崎生涯学習課長)

資料8ページに記載していますが、神戸大学の松岡広路先生がされています。

(森本委員)

補助金については、この議決がなかったら前へ進まないということですか。

(宮崎生涯学習課長)

こちらで承認をいただいて、支出する格好になっています。

(森本委員)

コミュニティスクールについても触れていますけれども、恐らく現場の考え方と国全体の進んでいる方向とに随分差があります。その辺のところは教育委員会会議でも議論すべきでしょうけれども、コミュニティスクールは一定の形にまで広がっていないです。この前も国の会議に行ってきましたけれども、国が大きなかけ声をかけても、残念ながら現実としてほとんど進んでいないですね。

コミュニティスクールと言われてはいますが、現場と差があることについては市立高校の先生方も言われていたと思いますけれども、なかなか難しい問題です。

そういうことも議論されていると改めてわかりました。

(雪村教育長)

社会教育委員会議についてはよろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

そうしたら、報告事項6の中学校給食についてお願いします。

## **報告事項6** 中学校給食について

(馳川健康教育担当部長)

昨日、中学校給食運営会議を初開催しました。担当課長の庄田より説明します。

(庄田中学校給食担当課長)

中学校給食運営会議(第1回)の議題は大きく2つです。中学校給食の再開についてのこれまでの経緯と今後の取り組みということについて説明し、意見交換を行いました。

資料1は委員名簿です。12名の委員に参画いただいています。学識経験者、保護者代表、学校代表、事業者関係、行政関係から構成しています。学識経験者については、昨年度来の有識者会議の先生方に参画いただいています。なお、座長については中学校長会の給食検討委員会委員長である吉田中学校の庄治校長に務めていただきました。

資料2、開催要綱ですが、今回の給食運営会議の目的として、中学校給食の運営推進に関して幅広く保護者、学校関係者から意見を求めることとしています。

資料3以降について説明します。

まず、資料3です。神戸市としては、平成25年3月に中学校給食の実施方針を立てました。内容については、実施方式としてデリバリー（ランチボックス）方式を採用することを、教育委員会会議で決定されたものです。

次に、資料4ですが、平成26年3月の教育委員会会議において、中学校給食の実施概要を決定しています。実務的な1カ月単位の申し込み方法や、1食当たりの給食費300円とすること、就学援助や予約管理システム等を設けるといった具体的な内容を決定しています。

次に、資料5-1です。今申し上げた実施方針、実施概要を含めて、ことし9月29日に全校実施の再開が決定しましたが、その前の、今年の契約解除も含めてこれまでの経緯を報告しています。

資料5-2ですが、昨年、契約解除があった事案の検証、検討を行った中で、異物混入事案や衛生管理指導、情報公開のあり方、あるいは事業者選定の方法について、有識者会議から意見書をいただいていますので、抜粋をつけています。

資料5-3ですが、ことし5月9日の給食再開に向けて事業者公募のプレス資料そのものです。

裏面には、情報公開のガイドライン、衛生管理、保護者・有識者の参画とあわせて、4番のところに安全・安心で喜ばれる給食を実施していくため、今後、保護者・有識者による（仮称）中学校給食検討委員会について記載していますが、これが今回の中学校給食運営会議です。

次に、5-4ですが、情報公開のガイドラインとして、先ほどの資料と同じく、平成28年5月9日に記者発表したものです。異物を非危険物・危険物の区分に分けて、危険物の場合は即時公表し、非危険物の場合でも、年1回をめぐりにまとめてホームページ等で公表するというガイドラインとしています。

次、資料5-5ですが、今回初めて報告させていただく内容です。中学校給食における異物混入の状況として、先ほどのガイドラインに基づいて、平成27年度全体及び平成28年度の4月から9月について、ここで異物混入の状況を報告します。

次に、資料5-6ですが、今回、先行しているコープフーズに加えて、万福、サンケータリング、グルメサービスと、残っていた7区について3事業者で実施していただくことになったので、報告しています。

これらを、これまでの経緯として会議の場で説明しました。

資料6以降は今後の中学校給食の取り組みについてですが、内容は大きく2点あります。一つが中学校給食のアンケートです。今回、西区、東灘区の中学校20校を対象に、9月6日から23日までの期間、中学校給食のアンケートを実施しました。（5）回収状況としては、生徒については約1万件で回収率90%、保護者については約半数の回収となっています。

アンケートの内容としては、生徒には給食のよいところ、よくないところ、またおかげ

の味等について尋ねています。保護者には、給食の意義等についての理解や利用状況について確認しています。中でも継続利用している方には、その理由と改善要望などを尋ねています。

アンケートは全体で1万7,000件ほどありますので集計中でしたが、傾向について報告しました。

給食を利用している生徒からは、よいところについて、「お弁当を持っていかなくて便利」「御飯が温かい」ということ。よくないところには、「おかずが冷たい」「好きなメニューが少ない」という意見が多いです。給食を利用していない生徒には「給食を食べたことがない」という生徒がやはり数多くいました。「食べたことがある」生徒よりもやや多いということでした。

保護者は、給食の意義として「バランスのとれた栄養を考えて、多様な食品を組み合わせている」ことについて、ほとんどの方が理解されていました。利用されている理由としては、「便利だと思う」「栄養バランスがよいと思うから」という意見がありました。改善してほしい項目としては、「おかずを温かくしてほしい」という意見がありました。また、給食を利用していない保護者については、ほとんどが家庭弁当ということでした。

3 ページですが、今回は給食運営委員会の1 回目の会議ということですが、あわせて今後、給食の献立作成委員会と、4 社の調理委託事業者連絡会を定期的で開催したいと考えています。

また、報告後に委員から意見をいただいている、保護者委員から「食の楽しみを味わえるような神戸らしいランチがあってもいいのではないか」、「お昼の時間をもう少しとっていただけたらどうか」という意見がありました。また、有識者、専門家の方からは、「行事食などを加えること」、「日々の献立の中で栄養バランスなどの表示もしてはどうか」、「アンケートにあった冷たいという意見は、衛生管理上は仕方がないけれども、味とのバランスはなかなか難しい」という意見もありました。

また、異物混入に関しては、「昨年来、よく対応している」という意見もありましたので、事業者も異物混入対策については全力で取り組んでいると報告しています。

健康教育課としては、現在スムーズな全校実施に取り組んでいますが、集計中のアンケートの内容も踏まえて、いい給食に向けて取り組んでいきたいと考えています。

以上です。

(雪村教育長)

中学校給食について、御意見いただきたいと思います。いかがですか。

(森本委員)

資料5-5に異物混入状況の一覧がありますね。前にも報告していただいたと思いますけれども、平成28年4月から9月までに42件あるうち、工場による4件というのはどんな



ものですか。

(庄田中学校給食担当課長)

毛髪が2件、スポンジ片が1件、それから小さいプラスチック片が1件、以上の4件です。

(森本委員)

見学に行かせていただいたら、入りようがないように見えましたけれども、あれでも毛髪は入りますか。これは「工場だろう」という断定ですか。

(庄田中学校給食担当課長)

事業者には検査をしていただいている、混入経路の特定が難しく「不明」というものが35件ありましたけれども、最終的な報告として、これは工場由来ではないかということでした。

(馳川健康教育担当部長)

41件の報告がありました。情報公開のガイドラインにそって、とにかく原因究明するということで、コープフーズでカタラーゼ反応の確認や調理工程の再見直しをして、この4件はコープフーズ内で入ったものであろうと事業者自身が言っています。

食材に由来するものについても、反応などをみて検査上は食材由来であろうというものもあります。それ以外の「その他」と「不明」という結果については、事業者からの聞き取りをして我々健康教育課で判断しています。

(森本委員)

わかりました。

きょう、新聞に出ていましたけれども、資料は全部出ていますね。

(馳川健康教育担当部長)

会議の中でも、やはり異物混入の話については情報共有が必要だということで会議資料を出しました。神戸新聞は改めて公表したような書き方になっていますが、あくまで会議資料として出ていて、ホームページにも掲載しています。

(梶木委員)

この結果はどう利用されますか。「おかずが冷たい」と言われても、そういう部分に関しては、恐らく「それなら温かくする」という話にならないですね。味つけも濃くすればいいわけでもないと思いますけれども、どう活用していったら喫食率が上がるのかという

考えはありますか。

(馳川健康教育担当部長)

おかずが冷たい部分については、いろいろ分析・検討が必要です。

実施したいと思っていることは、資料にも12月分の給食カレンダーをつけていますが、新たな取り組みとして、温蔵庫を活用した麻婆豆腐を商品開発しています。こういったできるだけ温かいものを提供していくということが一つです。

それから昨年度来、「冷たい」、「凍っているみたいだ」といった話があった部分については、例えば豚の脂が固まると非常にかたくて冷たいので、具材の組み合わせをもう一度見直しています。

それ以外にも、できるだけ温蔵庫を活用すること、あるいは食感として抵抗感のないものの組み合わせを研究することなどをしています。今後、アンケートの意見を踏まえて、調理事業者4社の連絡会や保護者や現場の教員も入る献立作成委員会で、メニューの組み合わせとして、可能な限り温かくできるものは温かく、それ以外の工夫についても、今年度中にぜひ検討したいと考えています。

(梶木委員)

最初のところに、パンやコンビニという記載がありますね。市会でも聞かれていたと思います。実際にはどれぐらいの率かわかりますか。

(馳川健康教育担当部長)

具体的な数字までは突き詰められていませんが、思っていたよりも少なく、ほとんどないです。

(梶木委員)

ほとんどが家庭弁当ですか。

(馳川健康教育担当部長)

はい。

(福田委員)

資料5-5の異物混入の状況は平成28年は4月から9月の半年間ですね。平成27年は何月から何月までですか。

(庄田中学校給食担当課長)

平成27年度は、4月から3月までの1年間です。実施校数も平成27年度は倍くらいです。

(福田委員)

そうすると、まだ気をつけないといけないですね。まだ件数がふえていく可能性があるから、このデータは決して楽観的な見方ができない。前からこの会議でもいろいろ議論されているように、きちんと異物混入についてチェックしていく、業者と一緒にやっていくということが必要だと思います。

(雪村教育長)

こういう会議にコープフーズという事業者が入っているのは非常にいいことだと思います。今回、事業者が全部出そろったわけですがけれども、事業者間の連絡会議はいつぐらいに立ち上がる予定ですか。

(馳川健康教育担当部長)

年内には開催したいと思います。4社全てと話をして、「ぜひ」と確認はとれています。

(雪村教育長)

異物混入対策や献立の工夫についての議論がそこでなされるわけですね。

(森本委員)

このほかにも、工夫ができることはないかと思います。このカラフルな給食カレンダーがありますね。いろいろなものが年々カラフルになってきて、年末にはお歳暮とかいろいろなチラシが出てきますので、紛れ込んでしまいそうな感じがします。

カラフルにしたほうがいいだろうと思いますけれども、色目が少し気になります。「オレンジ色のトレーがいい」と皆さんで決めましたけれども、食材が映えていないので、例えば、次から撮影されるときには見直しされて、食材が生きるような色にしてはどうですか。写真の写し方もあるでしょうけれども、食材がおいしそうというよりも、赤っぽくなってしまっています。

ランチボックスについては初期投資でたくさんのお金を使っていると思いますけれども、今もカラフルできれいですけれども、配布を続けるなら、余りおいしそうに映っていないので、そんな工夫も考えられたらどうかと思います。

(梶木委員)

これは弁当箱に入れて写さないとだめですか。

(雪村教育長)

移しかえてもいいような気がしますね。

(馳川健康教育担当部長)

実際に、こういう献立でいこうということで、この写真は大体2カ月前に撮影します。今はコープフーズ1社だけですので、実際につくってもらって、子供たちに提供するランチボックスに入れるとどういう形になるのかを栄養教諭、管理栄養士が立ち会って見た上で、撮影しています。以前に「写真をもっと見ばえがいいように」という意見もいただいたので、写真もかなり頑張って撮りました。その結果がこれです。

今後、カレンダーのあり方については、どういう形がいいのかも含めて検討したいと思っています。できるだけ食育の部分も含めてアピールしたいと思っていますので、少しキヤッチコピー的なものを入れたり、食事の大切さや食育の部分を少し入れたりしていますけれども、このカレンダーの作成、活用について検討させていただきます。

(雪村教育長)

例えば、全く違う白い皿に入れたらイメージが湧かないかもしれないけれども、写真撮影用の別の色のランチボックスに同じように詰めて、写真を撮るということを一度検討したらどうかと思います。どこかに「実際のランチボックスはオレンジ色になっています」と注釈を入れておけばいいと思います。何色が映えるのか、よくわからないので、専門家とも相談して決めてください。

(馳川健康教育担当部長)

わかりました。

(梶木委員)

小学校給食では写真は載っていないですけども、載せたほうがいいですか。

(馳川健康教育担当部長)

小学校では載っていないので、「ここまで写真を載せて、しかもカラーの写真が要るのか」という意見もあると思います。小学校はもっと白黒のシンプルなものです。これまでの申し込み方法は、食べようと思う人が前月に申し込むスタイルでした。このカレンダーについては中学校給食がどんなものかわかっていたかどうかという意図で、定着するまでこの形と考えていました。けれども、今後は給食を自動予約方式に切りかえていきますので、カレンダーに写真が要るのかも含めて検討して、お諮りします。

(伊東委員)

クラブ活動などの希望の聞き取りが小学校6年生に回ってきています。以前に小学校で試食をしてはどうかと少しお話ししました。予算のこともあるかと思いますが、こ

ういう給食をやっていることについて小学校にも配布するか、もしくは掲示するなどしていったらいかがかと思ひます。

(馳川健康教育担当部長)

わかりました。

今、小学校6年生の子供たちには、4月からの中学校での給食に向けて利用登録とかの案内をしています。来年2月ぐらいには、具体的に予約の手続に入ってきますので、もっと啓発して、わかってもらうようにします。

今年度は、小学校の給食費の改定について検討していますので、少し難しいかもしれませんが、次年度以降については、伊東委員から意見をいただいたように中学校給食を小学生の子供たちに小学校の段階で食べてもらえないか、そういったことも含めて検討したいと思ひます。

(今井委員)

学校の先生は、どのくらいの割合で給食を召し上がられますか。

(馳川健康教育担当部長)

申し込み制で、喫食率37%ですので、できるだけ食べてもらうようにお願いしています。

教員の場合、行事や校務の関係で、毎日きちんとこの時間帯に食べるのが難しいですが、できるだけ担任の先生は子供たちと一緒にクラスで食べるように、校長会を含めて話していきたいと思ひています。

(今井委員)

今回のアンケートには対象に先生が入っていないみたいですが、次回以降、先生にも意見を伺ってもいいのかなと思ひます。

(馳川健康教育担当部長)

検討します。

(梶木委員)

スマートフォンのホームページで見るメニューのほうが、少しおいしそうに見えますね。何か背景の色の問題かなと思ひます。

(雪村教育長)

そのほか、特にありませんか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

続いて報告事項1、平成28年度第2回定例会市会（決算特別委員会）の報告について、総務課よりお願いします。

## **報告事項1** 平成28年度第2回定例会市会（決算特別委員会）の報告について

(豊永総務課長)

少し分量が多いので、決算特別委員会の局別審査と総括質疑をそれぞれ区切って説明、質疑をさせていただけたらと思います。

まず、決算特別委員会の局別審査です。

(1) 民進こうべ、人見委員から、①今後の教職員の多忙化対策について、②中学校給食について信頼回復の取り組みに関して、それから、③学校施設の老朽化対策、④地域スポーツコミッションの設立についてという質問がありました。

(2) 日本維新の会、外海委員から、①いじめ問題について認知の解消の状況に関して、それから、②小中学校の過密化対策として御影北小学校の件について質問がありました。

(3) 自由民主党の梅田委員から、①県費負担教職員の権限移譲について自然学校、トライやる・ウイークの県補助金継続に関して、②児童・生徒の学力向上として成果や今後の取り組みに関して、③英語力の向上について井吹台中学校区の研究推進校での取り組みや成果に関して、④学校施設の改修としてトイレ・エレベーターに関して、⑤トップアスリートと児童生徒との交流、⑥ラグビーワールドカップ2019、⑦東京2020オリンピック・パラリンピックについて、それから、⑧ものづくり産業にかかわる技術者の育成として高専に関する質問、裏面の⑨公立幼稚園の再編について、⑩北野地区に対する取り組みの強化について、質問がありました。

(4) 日本共産党、大前委員から、①いじめ対策について子供に寄り添えるよう35人学級にという質問でした。②中学校給食の方式見直し、③小学校給食費の改定について、④三宮図書館の移転について、⑤就学援助について質問がありました。

(5) 公明党の徳山委員から、①部活動等の顧問について現状と顧問の対策に関する質問でした。②教頭の多忙化についてサポート体制の強化に関して、③学ぶ力・生きる力向上支援員について、④日本語支援が必要な外国人児童・生徒への支援について、⑤若手教員に対する研修の充実について、⑥三田における図書館の利用に関して隣接市との相互利用について、それから⑦スクールカウンセラーの配置について質問がありました。

(6) 新社会党、小林委員。①HAT神戸の特別支援学校について質問がありました。

それから、(7) 民進党、諫山委員から、①HAT神戸における特別支援学校の建設について、それから、②高等学校における主権者教育の状況についてという質問がありまし

た。

無所属、浦上委員からは①中学校給食について「温かいものを」という質問でした。局別審査については以上です。質問等ありましたら、お願いします。

(森本委員)

いじめのことについて議論がたくさん出ています。今回も速報値で非常に高い数字が出ていました。その数値が他の都市や全国と比べたらどうかといったぐあいに、数値や解消率などが取り上げられることが多いですけれども、現場で努力されていることが伝わるように何かされたいと思います。

もちろん統計的なことも大事ですけれども、その数値とは別に、学校の中で何が行われているかということです。保護者との意見交換を十分やっているところもあります。残念ながらそのパイプが詰まっていて、問題が大きく外に出てしまうこともありますけれども、多くは共通理解を図りながらやっています。何かそういう伝わり方があったらいいと思います。答えに窮することが多くて、「何もしていないのではないか」とか「全てが隠されているのではないか」と報道されてしまいます。

非常に難しい場面もあります。あるいは、残念ながら学校のスタンスが徹底されていない件もあると思いますけれども、対応で子供たちの関係が変わったりとか、あるいは地域との関係が変わったり、学校の方針が大きく前進したケースもあると思いますので、何かそういったこともあわせて伝わってほしいと思います。

今回、新聞で出た数値やグラフはびっくりするようなものになっています。当然、事務局は出ているものは非常に細かく見ていった結果だと説明すべきだと思います。それでも、それだけだと説明不足ではないかと思います。

この問題はデリケートなので、できるだけわかりやすく市会の先生方にも伝えていただいて、もう少し意見交換ができたらいいいと思います。

(豊永総務課長)

そのほか、特によろしいでしょうか。

そうしたら、資料2ページ目、決算特別委員会の総括質疑です。局別審査を受けてさらに聞きたい場合に、市長、副市長も入った場があります。それが総括質疑で、そこで7問の質問がありました。

(1) 権限移譲について、自由民主党の梅田委員からです。先ほどの自然学校、トライやる・ウィークに関する県の補助金カットについて、補助の継続という質問でした。

(2) 小学校給食費の改定について、日本共産党の大かわら委員からです。

(3) 臨時講師にかかわる諸課題についてということで、公明党の堂下委員からです。これは、研修の拡大等についての質問でした。

(4) 神戸の観光振興ということで、民進こうべ、大井委員から須磨海岸に関する質問

でした。

(5) スポーツを活用した地域振興等のあり方について、民進こうべ、大井委員から、地域スポーツコミッションの設立についての質問でした。

(6) オリンピックの事前合宿地誘致について、日本維新の会、高橋委員からの質問でした。

それから、(7) 教育大綱について、民進党の諫山委員から、教育大綱に掲げている教育に関する科学的な研究という項目について、市長の思いと取り組みについてという質問でした。

総括質疑は以上ですが、何か確認等ありましたらお願いします。

(雪村教育長)

総括質疑について、いかがでしょうか。

岡田局長に質問ですけれども、オリンピックの事前誘致の話が出ています。甲南大学と連携して柔道について取り組むということですが、兵庫県が姫路市をホストタウンとして柔道で登録していましたね。そことのすみ分けはどういう形で考えていますか。例えば、それぞれ違う国にターゲットを絞っているとかですか。

(岡田スポーツ担当局長)

何もないところから合宿誘致というのはなかなか生まれにくいので、何かのつながりがあるところを各都市は探します。

少し忘れてしまいましたけれども、かつて姫路市には、フランス柔道を発祥させたと言われる方がいらっしゃったそうです。その関係で、フランスの柔道のホストタウンとして当たりをつけていたと記憶しています。

我々はスポーツ部門についても甲南大学との包括協定の中で、甲南大学に柔道連盟の副会長がいらっしゃいますので、その方と協議して、ネットワークを使って誘致します。

我々はまだホストタウンに認定されていませんが、この10月末までに3次登録を出しましたけれども、カナダやスイスについて、新たに柔道の切り口でホストタウン登録しています。

(雪村教育長)

だから、神戸市はフランスというわけではないのですね。フランスは兵庫県ということですか。

(岡田スポーツ担当局長)

ただ、兵庫県が決まったように書かれていますけれども、全く何も決まっています。我々もそうですけれども、全く何も決まっています。



もう一つ大きなライバルとして天理市がホストタウンを出しています。フランスの柔道チームはいつも天理大学で練習しています。歴史的なつながりがあるようで、確認したわけではないですけれども、恐らくかなりの誘致合戦をしているのではないかと聞いています。

ホストタウンというのは皆勝手に出しますから、結構、重複しているところがあります。その中での競争ということになります。

(雪村教育長)

わかりました。

そのほかは特によろしいですか。

(森本委員)

この会議でも何度も出てきていますけれども、自然学校、トライやる・ウィークについては、「神戸市は別だ」という理屈はよくわかりません。兵庫県と神戸市が向き合っていなかったらいけない。それが離反して「それはそちらでどうぞ」となってきます。これは大事なところだと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

(豊永総務課長)

市長も同じ思いで、県に要望に行っています。

(雪村教育長)

先週金曜日に、県会への予算要望があつて、市長と関係局長で行ってきました。先方は県会議員の重立った方がそろっていました。

神戸市会として最終日に議長名で県知事宛ての意見書を取りまとめて出したこともあつて、市長が挨拶の中でも、「市会からの意見書もあり、これについてはぜひともお願ひしたい」と強く触れました。「詳細は双方の財政同士で相談しましょう」となりましたが、そういった場が金曜日にありました。

そのほか、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

引き続き、主要行事予定について、総務課より説明してください。

**その他の報告事項** 主要行事予定

(豊永総務課長)

10月11日以降の主要行事については、記載のとおり行事に各委員に行っていました。

2番目の今後の主要行事予定ですが、11月8日から11月26日まで、小学校音楽会、特別支援学校・高等学校の文化祭が開催されます。

11月8日ですが、義務教育学校港島学園の開校記念式典。

10日は、幼稚園長会との教育懇談会。

11日は、葺合高等学校の新校舎完成式典。

17日は、新港橋高等学校の開校記念式典。

18日は、舞多聞小学校の開校記念式典。

19日は、神戸マラソンのレセプションパーティー。

20日が、第6回の神戸マラソンとなっています。

それから、3番目の委員会会議日程ですが、11月15日の13時15分から定例会を予定しています。

以上です。

(雪村教育長)

行事予定について、補足されることなどはありますか。

今井先生、森本先生、あつまれこうべっこはいかがでしたか。

(今井委員)

楽しかったです。すごくほっこりさせていただきました。自分の娘も5歳で、同じ年代なので親目線で見ました。

私の子供が通っている保育園は園単位で、集まっても3園ぐらいです。あれだけ大がかりに、しかも全員が集まって、ぶっつけ本番の当日だけとお聞きして、何て素晴らしいんだと思いました。先生方が事前準備でいかに大変な思いをされているのかとすごくしみじみと感じました。本当に素晴らしい内容でした。

(雪村教育長)

森本先生、例年との比較で、ことし何か気がつかれたことはありますか。

(森本委員)

毎年、行っていると、だんだんわかります。バルーンの正式な名前がわかったり、バルーンの使い方が違います。園ではできないことをあそこでやろうとしていることも分かりました。それからバルーンは、全部園持ちだということですね。

終わってから子供たちがどういう行動をとっているかもわかりました。終わっても、皆

帰らないで、国際会議場前の石畳の広場で御飯を食べていました。御飯を食べてから、走り回っていました。一通り走り回ってから、帰っていました。

先生方が会場の片づけをするでしょう。それを園の子供たちは待っていますね。それから、三々五々帰っていました。その場面も見て、帰ってきました。

(雪村教育長)

ありがとうございました。

ほかに行事予定については、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

そのほか、教育委員の皆さんから教育委員会会議で取り上げるべき項目について意見はありませんか。何かありましたら、また後日でも結構ですので、事務局までお伝えいただきたいと思います。

それでは、非公開案件に入ります。傍聴者の方々は、恐れ入りますが、退席をお願いします。

(傍聴者 退席)

(雪村教育長)

それでは、教第42号議案、平成28年度神戸市一般会計補正予算（教育委員会所管分）に関する意見決定の件について、総務課より説明をお願いします。

### **教第42号議案** 平成28年度神戸市一般会計補正予算（教育委員会所管分）に関する意見決定の件について

(豊永総務課長)

8施設の指定管理の件については、10月11日の教育委員会会議で指定管理者の指定に関する意見決定の件として、議決をいただきました。今回は債務負担行為に関する補正予算です。予算は基本的に単年度になりますが、複数年にわたって契約する根拠として債務負担行為を設定します。欄外にも書いていますが、今回補正するのは平成29年度に指定管理を更新する施設について、複数年にわたる協定を締結するに当たり、債務負担行為を設定するものです。資料の上から順に、東灘図書館、兵庫図書館、新長田図書館、北図書館、北神図書館について、平成33年度まで11億の限度額で債務負担を設定します。

2つ目の婦人会館は平成33年度まで8,600万円、それから風見鶏の館及びラインの館は

平成32年度まで1億3,100万ということで、債務負担行為を設定するものです。  
説明については以上です。審議をお願いします。

(雪村教育長)

予算について、いかがでしょうか。

(森本委員)

「その他特定財源」と書いてありますが、これは何でしょうか。

(豊永総務課長)

4,100万円と1億3,100万円ですね。施設使用料と入館料です。それ以外を一般財源でやっていくということで、財源の内訳がそれぞれ出ています。

(森本委員)

婦人会館の場合は、4,100万円と4,500万円で一般財源が半分、それから利用料収入で半分ということで、風見鶏の館が全て利用料、使用料ですか。それだけでやっていけるわけですか。

(豊永総務課長)

はい。

(森本委員)

風見鶏の館はどんどん人が来ないとだめだということですね。

(豊永総務課長)

非常に入館者が多く、例年1億円以上の収入が上がっています。

(森本委員)

婦人会館の場合は、入館料は関係ないですね。

(豊永総務課長)

会議室等の使用料です。

(雪村教育長)

予算について、よろしいですか。

(6名の賛成により可決)

(雪村教育長)

続いて協議事項8、神戸市立工業高等専門学校の新たな教育プログラム（航空分野・医療分野）についてお願いします。

### **協議事項8** 神戸市立工業高等専門学校の新たな教育プログラム（航空分野・医療分野）について

(若林工業高等専門学校副校長)

先日、高専ロボコン近畿地区大会にはたくさんの方に来ていただき、ありがとうございました。競技のほうは残念ながら、ロボットが計画したとおりには動かなかったですが、大会運営に関しては無事に実施することができました。どうもありがとうございました。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

本当に高専ロボコンの応援ありがとうございました。結果は本当に残念で、期待に応えられなかったわけですが、今後とも頑張っていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。11月13日日曜日に、NHKの総合テレビで11時から放送されますので、よろしければ、ごらんいただきたいと思います。

それでは、協議事項の8、神戸高専の新たな教育プログラム、航空分野・医療分野について説明します。9月27日の教育委員会会議でロボット分野について提案させていただきましたけれども、本日は航空分野について宮本教授、医療分野について戸崎教授から説明します。

(宮本工業高等専門学校教授)

簡単に申しますと航空分野のプログラムは、講義と見学研修と、それから英語教育の3本柱になっていて、カリキュラムとは別にそのプログラムが動くこととなります。その3つを履修した学生について、企業と連携を持ちながら最終的には神戸市内を中心とした企業へ向けて人材育成していくことが最終目的となっています。講義では、企業と連携をとりながら見学研修なども進めていこうと思っています。

資料1ページ目に、検討と目的、3に概要が、4に先ほど申しました3本柱のおおよその内容が記載されています。

3ページ、5のところ、機械工学科と電気工学科、電子工学科のカリキュラムの中での関連する教科を記載していて、それについて優秀な成績をおさめることが修了要件となっています。

以上、よろしくをお願いします。

(戸崎工業高等専門学校教授)

医療分野の説明をします。資料5ページをごらんください。

医療分野では、本校の教育課程にある学外実習や卒業研究を軸に、さらに医療関係、福祉関連の知識を吸収する目的で設立を目指しています。神戸医療産業都市を推進する神戸市の産業界に、学生をどんどん送り出したいと考えています。

5ページから7ページにかけて、このプログラムで展開する科目を掲載しています。病院見学は実際に病院に行って、どういうことをしているか実地的に確認したり、あるいは6ページにある特別講義では、神戸大学など外部から専門性のある方に来ていただいたりして、最新の医療技術あるいは薬事法関連についての講義を受けていただこうと思います。それから、6ページ、7ページにかけて、機械、電気、電子工学科で展開される医療系の関連科目、8ページには、学外実習、卒業研究について書いており、本プログラムは医療系の卒業研究でプログラムを締めることを構想しています。9ページには、修了要件と本校の教育課程と本プログラムでの科目展開との関連性を図で示しています。

以上です。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

10ページに参考資料として、新たな教育プログラム、航空、医療、ロボット分野それぞれの検討経過を記載しています。11ページですが、今後の予定として、平成28年9月27日の教育委員会会議で提案したロボット分野に、今回提案している航空分野、医療分野をあわせた3件の新たな教育プログラムの内容・評価方法・選抜方法等について具体的に検討を重ねて、要綱等を策定する予定です。

それについては、12月の教育委員会会議で報告する予定です。

よろしく申し上げます。

(雪村教育長)

教育プログラムの航空分野、医療分野について、いかがでしょうか。

(梶木委員)

神戸が新しく打ち出している分野で、ものづくりの技術者教育について進めていただいて非常にありがたいと思いますけれども、これだけ外部とのやりとりなどがたくさんあって、調整も多い中で現スタッフのままでいけますか。

事務的な手続なども非常に多くなる気がします。小中高などからは「多忙化」ということをすごく言われていますけれども、高専もこれだけ新たなカリキュラムを構築したり、インターンシップで企業に行かせたり、さらにそれを認定していくということで考えると、新たな事務がたくさん出てきて、お金もすごくかかると思います。

ない袖は振れないと思いますけれども、やはり新たなことをするにはお金も人も要るのではないかと思います。見込みというのか、そのあたりはもう大丈夫ですか。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

来年4月からスタートさせるプログラムについては、基本的に現スタッフでの実施を前提に考えていて、講師は外部講師や民間企業の方が中心です。検討会に入っておられる企業の方が中心ですけれども、その外部講師の方に来ていただく費用や民間企業の方と一緒にプログラムを開発していくための費用などは、平成29年度の予算要求をさせていただいているところで、予算を確保しながらこの事業を進めていきたいと思っています。

(宮本工業高等専門学校教授)

人に関しては、例えば航空分野のプログラムが動いたときには、最低でも15人の講師がふえることになります。ほとんどは外部講師に来ていただいて、内部講師とあわせて、その15コマを持つことになります。内部講師が講義する分に関しては、我々が負担してプラスアルファでやらないといけないだろうと思っています。外部講師との間に入る業務に関しては、たまたま私が地域協働研究センターという企業と連携をとる立場にありますので、その部署でやるのだろうと思っています。それから外部講師に来ていただくときの講師料などは、事務方に手伝っていただくといった連携をとっていこうと考えています。

(梶木委員)

最初の1年だけではなくて、ずっと必要になっていきますね。それだけではなくて、きっと物品も新しくする必要が出てきますね。いろいろなものが老朽化していて、設備の更新が必要なものがたくさんあると伺っています。

(宮本工業高等専門学校教授)

そのとおりで、航空分野でも企業から求められるハードやソフトがあります。CAMやCATIAというソフトを教えてほしいという要請を企業から受けています。現状ではそれはできません。

学生に対してこういうことが求められていて、航空分野としてこういうシステムが欲しいですということはこれからどんどん上げさせていただいて、教育委員会や神戸市に協力いただけたらと思っています。そういったプログラムを持つことで、企業との連携もとりやすくなってくると考えています。

(梶木委員)

神戸市の予算だけでは難しい場合は、いろいろな助成金、補助金、あるいは企業からの協賛金みたいなものがあると思います。

それで、これを実施したときの評価ですね。新たな分野のプログラムを実施して、うまく動いているのかという評価体制もあわせて、しっかり構築されたら、次の予算申請がしやすくなると思います。頑張ってくださいと思っています。

(宮本工業高等専門学校教授)

目に見える形で頑張りたいと思います。

(梶木委員)

すごく応援したいと思いますけれども、「目に見える形で」というところがあれば、より応援しやすく、予算も通りやすくなると思いますので、頑張ってください。

(宮本工業高等専門学校教授)

ぜひよろしくをお願いします。

(森本委員)

今度、スクール・ミーティングがあるので、現地でいろいろな意見を聞かせていただけたらありがたいと思います。

いつもこの会議で報告を受けたり、協議させていただいたりします。私だけかもしれませんが、少しずつ高専への理解が進んできました。ロボコンを見にいくと役にも立たないロボットが戦っていますけれども、意味があるのだと思いました。あそこまで熱心に行っているのがよくわかりましたし、ロボットのこともよくわかりました。

けれども、医療や航空となってくるとほとんど専門的なことが見られないので、よくわからないままに進んでいるという感じがします。航空といっても、大型の旅客機が飛んでいるぐらいしか思いつかないです。きっと裾野が広いのだと思います。

また新たなプログラムが始まりますけれども、高専に入ってくる子たちは普通に中学校を卒業して来る子たちです。その子たちに「高専に行くと、こんなことがあるぞ」ということを伝えていく機会がなかったら、単に「理系」、「5年勉強したらいいんだ」ということになってしまいます。中学校にこの新しいことを伝えていく必要があります。これは事務局と高専とで打ち合わせをされたらいいと思います。

設置検討委員会のメンバーの所属団体一覧という資料をいただいていますけれども、経済観光局は入っていますけれども、教育委員会が入っていないです。どこの課が所管するかということはあるのですが、教育委員会が入っているべきだと思います。それがないと、この話の内容がこの会議のみでとどまってしまっている可能性があります。会議では我々教育委員だけは勉強になりますけれども、勉強しても発信する手段が限られています。せっかく医療、航空、前回のロボットと、3つの新しいことが起こりつつあるわけですから、事務局とも十分相談されてやっていったほうがいいと思います。この会議だけでは、残念



ながら「こんなふうにしたらどうですか」ということだけになってしまいます。中学校や、あるいは編入してくる子がいる工業高校、昼間と定時制を含めて、そこに伝わるように検討していただければありがたいと思います。

(若林工業高等専門学校副校長)

ありがとうございます。ぜひ、そうしたいと思います。

(福田委員)

この前の会議でも、ロボットのことでお聞きして、非常に期待しているということを申し上げたと思いますけれども、やはりアウトプットは就職だと思います。もちろんカリキュラムの中にインターンシップがプログラム化されていますし、関連の企業に就職されると思いますけれども、このコースを出た学生ができるだけ神戸エリアで就職していただいて、実績を出していただくことが評価の一番大きなポイントになるのではないかと思います。

先ほど企業と連携されているという話がありました。当然先生方は個人的にいろいろされていると思いますけれども、今以上にもっと幅広く、多くの企業とネットワークを組んで、いざというときには「幾らでもネットワークはありますよ」となるような活動を教育を通じてやっていただければと思います。そして、「学生の仕事の枠組みを広げながら活躍できる人材を輩出していること。それが市立高専の特徴です」とうたっていただけるように、頑張ってくださいと思います。

(宮本工業高等専門学校教授)

ありがとうございます。

(梶木委員)

これについて学生は、もうわかっていますか。

(宮本工業高等専門学校教授)

まだ全体像は公開していませんが、何かしら耳に入っている学生は多いです。

(梶木委員)

どんな反応ですか。「ぜひ行きたい」とかですか。

(宮本工業高等専門学校教授)

学生よりも保護者が希望されています。「まだですか」という声があります。「今、教育委員会に諮っています」と答えています。

(若林工業高等専門学校副校長)

ロボット分野に関しては、1つ前の会議で方向性を認めていただきましたので、先日の高専祭(学園祭)でもPRしました。今回、検討いただいている航空分野と医療分野についても、本日の会議で方向性が認めいただいたらPRしていきたいと考えています。

(今井委員)

私は根っからの文系なので、理系の世界がいま一つわかっていないですけれども、この新しい分野は特にすごく専門化されて進んで行くように感じました。例えば「医療に行ってみよう」と思って始めたはいいけれども、「やはりこの分野は嫌だ」と思ったときにかわることができる仕組みはありますか。

(戸崎工業高等専門学校教授)

医療に関しては、専門的なことを学ぶというより、高専に元からある教育課程の単位を履修しながら、その枠の外にはみ出た部分で、病院を見学して実際に手術はどうしているとか、手術中にエンジニアがどう動いているとか、そういうところを実地的に見学してもらい、あるいは医療機器を開発、製造しているところに行き、例えば水銀の血圧計がどういう仕組みで血圧をはかるのかといったことを、自分が持っている知識をベースにして理解するというような形で進めたいと思っています。今のところ特別なことを新たに学ぶことは検討していません。

(福田委員)

これはコース認定されますか。学生に対して認定証を出しますか。

(戸崎工業高等専門学校教授)

はい。

(福田委員)

就職するときに認定証を持っていたほうがメリットがあると思います。ぜひフォーマルな認定証をつくってください。

(戸崎工業高等専門学校教授)

神戸高専の名前でプログラムの認定証を出します。

(宮本工業高等専門学校教授)

先ほどの今井委員からの「途中ではぐれてしまう可能性がある」という意見ですが、こ

れはありますけれども、そうならないように、企業の方から最先端の話をしていただくなど、プログラムを魅力的にしたいと思います。横に外れてしまっただけでは、アウトプットの評価が下がってしまいますので、そういうことのないように頑張っていきたいと思っています。

(雪村教育長)

聞き逃したと思いますけれども、6 ページ一番下のロボット工学は医療の分野ですね。例えば、手術用ロボットでダ・ヴィンチなどがありますね。ああいった部分は医療に入りますか、それともロボットに入りますか、それとも同じ先生から両方共同して授業を聞きますか、どういう形を考えますか。

(戸崎工業高等専門学校教授)

医療分野では医療ロボットを使っている医者に来てもらって、話をしてもらうことを想定しています。開発というよりはむしろ医者の立場からそのロボットをどう使うか、どう見るかというところを学生に話してもらって、実際に手術の現場をプロジェクターで投影しながら、ここをこうするとこう切れるといったところを学生に見てもらいたいと考えています。

(雪村教育長)

医療分野ではそういうような目で見るということですね。同じようにロボット分野でも医療用ロボットという部分の講義や実習がありますか。

(戸崎工業高等専門学校教授)

恐らくあるとは思いますが。

(雪村教育長)

それは開発といった観点からですか。

(若林工業高等専門学校副校長)

ロボット分野では、電気工学科、電子工学科、機械工学科、それぞれの学科のベースの間にあるところを勉強していきます。開発、あるいは組み合わせを考えるシステムインテグレーター、S I e r ということを志向していますので、医療分野から見たときと、同じロボットと言っても視点が違うと考えています。

(梶木委員)

専攻科もこれに合わせて何か考えていけますか。

(戸崎工業高等専門学校教授)

5年生で卒業させて企業に送り込むことを想定していますので、専攻科までは今のところは考えていません。もしそういう要望があるようであれば、また今後検討したいと思います。

(梶木委員)

高専の方は他大学に編入して、神戸から離れてしまう場合もありますね。

(宮本工業高等専門学校教授)

航空分野に関しては、5年生で卒業して神戸市内で就職することを大前提にしたいと思っています。専攻科に行って大学へ行く学生は、そちらで航空の勉強ができますので、わざわざ5年生の中のプログラムで教え込む必要が我々にはないです。5年生で出てもらって、企業に入っていただくことがまずは第一ですので、専攻科の授業をどうするかというところは、今は全く考えていません。

(森本委員)

そこは大きな境目だと思います。5年を終えて、やはり大学に編入しよう、院まで行こうなど、長いスパンで考えていますので、どんな形で子供たちや保護者に伝えておくかですね。選択としては大きな分かれ目になると思います。5年で卒業して技術者として現場の一線に行っても、考え直して、大学にもう一度行き直す方も出てくるでしょうけれども、そのあたりのPRが曖昧であればよくわからないまま行ってしまっ、「この道に来ずにもっと学んでから、そっちに行ったらよかった」といったことになってしまいます。その辺をどのように伝えていくかということがあるでしょうね。

(若林工業高等専門学校副校長)

スタート時点では、3分野の教育プログラムは本科卒業生をターゲットにしています。今後どうしていくかは、また次のステップだと思っています。

(梶木委員)

行く側からしてみれば、少し先が見えているほうがきっといいと思います。次のステップとは思いつつ、学生にとって選択肢は多いほうがいいと思います。今、森本先生がおっしゃったように、子供の親からすれば「もうこれしかないのか」と思ってしまうことと、入ったときには「大学編入や大学院まで」と思いながら入ってくる学生や保護者も意外と多いということも聞いたことがあります。多様な選択肢があるのが「高専のいいところ」と売りにされているところがありますね。そのあたりの思いとの兼ね合いを考えてほしい

です。

(宮本工業高等専門学校教授)

やはり企業のニーズに左右されると思います。専攻科を出ても、神戸市の企業が就職を受け入れていただけるのであれば、それはオーケーだと思います。航空分野に限っては、企業で技術的に早く教えたいと皆さんがおっしゃいます。何社も回りましたけれども、5年制を出てすぐの基本を学んでいる学生が欲しいと皆さんおっしゃっています。専攻科を出ると大学生と比べられますので、航空産業に関しては就職の面では不利です。そういう手ごたえがあるので、まずは5年で出て航空分野に就職してほしいという思いがあります。世の中のニーズに応じて変更していきたいとは思っています。

(伊東委員)

先ほど、保護者から「早くやってほしい」と要望があるとおっしゃっていました。その辺の保護者のニーズとこれは合致していますか。保護者の方も、5年ですぐに卒業して神戸の企業に就職するというイメージを持っているのか、保護者の方はそこでさらに勉強してほしいと思っているのか、どんな感じですか。

(若林工業高等専門学校副校長)

難しいですね、保護者と一くくりにしても、いろいろな方がいらっしゃいます。勉強はできるけれども、5年生で就職するという学生もいます。全員が一概により高い学歴を求めているかというところでもないと思いますが、企業側から言えば、20歳でここまで身につけているというところが大きいと思います。

(森本委員)

間違いないのは理系の子供たちはどこで何を学んだか、どの会社で何の仕事をしてきたかということがずっと積み上がってくることです。キャリアを積んだ人たちはどこでも行けます。自動車産業に行こうが、航空機産業に行こうが医療産業に行こうが、技術者がやっていることは限られています。ですから、ずっと同じところでとどまって仕事をする方は少なくなると思います。きちんとキャリアを積んでいれば、医療産業から航空機産業に移られるのだということをお子たちに教えておく必要があると思います。高専に行って就職して20歳から仕事するという選択肢もあるけれども、そこから大学に行き直したり、企業に入った後でもいいところに移っていきたりします。ところが、我々みたいな文系は行けないです。それが理系だと、場合によっては大学で教鞭をとるということもある。そういうことを学生や保護者に伝えていなかったらいけない。5年で就職してすぐ職人さんの仲間になって働きますということではないと思います。今なら40歳でも転職する人はいますね。キャリアが積み上がっていくことを子供に伝えなかったら、保護者も不安になるだ

ろうと思います。ただ、そうなると神戸に帰ってきませんね。理系の方が神戸に帰ってくるというのはなかなか難しいかもわからないです。ただ、その辺の選択肢を子供にきちんと理解してもらったほうがいいと思います。

(雪村教育長)

そのほか、よろしいですか。

(6名の賛成により方向性を決定)

(雪村教育長)

続いて、同じく高専から、報告事項4、神戸市立工業高等専門学校 の諸会費についてお願いします。

#### **報告事項4** 神戸市立工業高等専門学校の諸会費について

(岸田工業高等専門学校事務室長)

続いて報告事項4、神戸高専の諸会費について報告します。

資料1ページ、概要です。諸会費の一部として、入学時に学校施設整備費として6,000円、年度ごとに教育環境充実費として3,600円を徴収しています。年間での徴収額は約600万円になります。これまで講義棟、一般科棟の教室や学生会館の空調設備、女子更衣室のシャワー給湯器修理、監視カメラ設置等に使用してきました。ここ2、3年は空調機保守費用、監視カメラリース料への使用のみで、残高が積み上がっていて、平成27年度末残高が約3,100万円になっています。

「学校施設整備費のあり方」ですけれども、調査の結果、他の国立公立高専や国公立大学でもこのような納付金の例がないことがわかりました。また、本来は市が予算で措置すべきものと考えられます。

「今後の方針」ですけれども、平成29年度からは新たな徴収は行わないことにしたいと思っています。さらに、平成28年度在校生に対しては、入学時からの納付額を返還したいと思います。返還見込み総額は約2,000万円です。返還後の残余金約1,000万円については、卒業生の加入率100%の同窓会「六神会」に寄附したいと思っています。

「諸会費の状況」です。諸会費としては後援会費や学生会費、クラス費、教育環境充実費等を徴収しています。

今回このような取り扱いをするに当たって、保護者の方に文書で説明していきたいと思っています。4行目のように、「本校におきましては、これまで教育環境を充実させるため入学時6,000円、毎年度3,600円をクラス費等の諸会費にあわせて徴収させていただいてまいりました。しかしながら、近年は本校の予算に基づき施設の更新等計画的な整備を順次行

っており、このたびこれまで徴収させていただいた金額を精算させていただくことといたします」という内容で、保護者に通知したいと思っています。

以上です。

(教育長、公務のため一時退席)

(森本委員)

教育長が退席されたので、私が司会をします。これについて、何か意見がありましたらお願いします。

(福田委員)

2番に「このような例がない」と書いていますね。「本来市が措置すべきもの」という意見が出てきたのですか。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

高専の内部から、事務の見直しの中で「残高が積み上がってきているのはおかしい」、「本来予算がついていれば、そちらで執行していかなければいけない」という意見がありました。

(福田委員)

これは内部から出てきたものか、外から何か言われたものか、少し気になりました。少し予算的には苦しくなるかもわからないけれども、私はこのようにすっきりしておいたほうが良いと思っています。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

かなり以前からこういった形で諸会費を徴収していたようですがけれども、近年は予算も認めていただいていますので、予算の中で必要なものを要求してやっていく形にして、こちらについては徴収を行わないということにしたいと思います。

(森本委員)

最終的には六神会に行くわけですがけれども、いつぐらいからお金がたまってきたのですか。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

実際には17年度当時、予算がなかなかつかなくて、このお金を使って、一般科棟のホームルーム教室などの空調を4,000万円近くかけて整備しています。そのリース契約が平成

24年度に終わっています。リース契約に年間600万円ぐらい支出していましたが、契約終了後もそのまま徴収してしまっていたので、余り支出することなく積み上がっていました。現在の残高は3,000万円近くになっていますけれども、今後、空調を整備するときには予算を認めていただいて整備していきたいと思っていますので、なかなか使途がありません。

積み上がってきたのは平成24年ぐらいから、5年ぐらいの間です。

(森本委員)

六神会に寄附されたら、今度は受け取った側が「そのお金は何か」、「何に使ったか」など、そちらに責任が行きますから、「1,000万円やってきたから使った」というわけにいかないです。六神会には経緯を十分説明して、高専本体でも使途の説明を受ける必要があると思います。その他の会費などと一緒になってわからなくなったではだめだと思います。1,000万円の使途がどうなるのかは絶えず問われると思います。

保護者宛の文案ですけれども、タイトルが文書には必要だと思います。

それから、担当は「事務室総務係」と書いてありますけれども、お金のことから、普通は担当者の名前を書かれているべきだと思います。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

はい、わかりました。

(梶木委員)

クラス費と学生会費はどう違いますか。これは余ると返していますか、それとも余らないですか。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

クラス費というのは、クラスごとに集めて各クラスでの校外学習やクラスの写真代などに使っている費用です。学生会費というのは学生会で、学生の課外活動やクラブ活動等の学生会活動に使っている費用として集めています。

高専の場合1年から持ち上がりになりますので、クラス費は5年間、次のクラスに持ち上がって行って、最後5年目で清算して、余ったものはお返ししています。学生会費は学生課で決算や予算を組んで、剰余金は次年度に繰り越す形で使っています。

(梶木委員)

後援会費はPTAみたいものですね。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

後援会費はPTA会費のようなもので、こちらも予算や決算を組んで繰り越ししていま



す。

(梶木委員)

実習費はどの学科でも同じですか。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

学科ごとに実験実習費を集めて、材料購入費や学生の卒業研究の旅費などに使っていますけれども、学科ごとに実験実習に使う費用が違ってくるので、残った分は翌年の予算に繰り越すような形で使っています。

(森本委員)

保護者向け文案の末尾3行で、「しかしながら、近年は」と書いてありますね。「近年」ではよくわからないので、何年度からかを詳しくしたほうがいいです。

もう一つは、今後入学する子はどうするのかが書かれていないので書いたほうがいいです。お金にかかわることなので、明快に書かれているほうがいいと思います。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

次に入ってくる学生からは、この教育環境充実費以外の諸会費を集めます。

(森本委員)

そのほか意見はありますか。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

ありがとうございました。

そうしましたら、教育委員会会議は閉会します。

**閉会 : 午後5時14分**